

里山のくらしを伝える



公園あいな亭

活動の概要

国営明石海峡公園は、明石海峡を挟んだ淡路地区と神戸地区の2地区で計画されています。神戸地区（あいな里山公園）では、平成24年度の開園に向けて、都会に残る貴重な里山を活かした公園づくりが進められており、その取り組みの一環で公園整備への市民グループの参画募集がありました。

この公園づくりに参加したのをきっかけに、里山の暮らしを継承し、伝えていこうと地域の有志7名で2つのグループを立ち上げました。1グループは、荒廃した田畑の再生を、他方のグループは生活・食文化の伝承に取り組んでいます。

荒廃していた田畑も原型に近くまで整備することができ、農作物も実り始め、それぞれのグループの当初の目標が達成された頃、農と食と生活の文化の継承に活動を大きく広げていき、多くの人に里山の環境保全の大切さを伝えていきたいと2つのグループを統合し、平成20年10月にNPO法人を立ち上げました。

現在、19名のメンバーで耕作、生活・食文化の伝承のほか、公園内のヤマモモを保全管理する樹林の活動をしています。

成果

開園はまだしていませんが、公園内の施設を開放してもらい、里山農地の環境保全、農作物の耕作体験、里山の生活（自給自足の知恵）、自然体験、食育講習など、さまざまな体験教室等を開催し、参加者は年約200人です。



こいものネット張り

課題

5年先、10年先も続けていけるように、後継者の確保が課題です。

参加者には、体験活動で終わらず、メンバーとともに引き続き活動してもらえよう、和気あいあいとした雰囲気づくり、体験のリピーターづくりなどの工夫をしています。

夢・抱負・今後の推進方向

国営明石海峡公園神戸地区開園にむけて公園周辺地域のまちづくりにも参加し、神戸市・兵庫県を活気のある地域にしたい。

何年か後には、自給自足の食事サービス(旬のものを使った里山の食事サービス)を行いたい。



染め物

団体名：特定非営利法人あいな育みの会

氏名：(理事長) 中西 久志 問い合わせは(事務局)中西 正枝

事務所の所在地：兵庫県神戸市北区山田町藍那字清水28

電話：(078) 591-2644 FAX：(078) 591-2644

E-mail：Aina0141@yahoo.co.jp

ノウハウ・コツ

①人材養成

活動は楽しみながら

各メンバーが自分の得意分野で活動できるように、そしてムリなく空いている時間を考慮して活動に参加してもらっています。全体での活動日は5のつく日と土・日曜日としていますが、その他に個別活動も本人の都合に合わせて可能としています。押し付けではなく楽しみながらの活動をこころがけています。

②活動資金

助成に頼らず、実施する事業の収益でクリア

活動資金が一番の問題です。私たちは環境保全の中でも主に里山の環境保全に取り組んでいます。里山の暮らしの体験として、田んぼ・畑の周囲の整備、米・野菜づくり、昔から日本人が食生活に取り入れてきたものを体験イベントとして実施し、参加者からイベント参加費用を徴収し、活動資金を補充しています。

体験イベントは、昨今、各家庭ではなかなか手作りされていない味噌づくり、だんごづくり、らっきょう漬けなどを題材にしています。野菜の収穫と組み合わせて、どうすればたくさんの人に参加していただけるのか企画を考えます。

時には、北区の祭りや県立人と自然の博物館フェスタなどの開催時に、里山の旬を味わっていただくため、地元でとれた野菜等を使ったカレー、フライドポテト、こんにゃくの田楽などの料理や、ヤマモモのジャム、らっきょう漬けなどの加工品を販売する出店もやっています。



よもぎだんごづくり



出店の様子

⑨活動の展開

目標設定・少しムリをすればできるものには挑戦

毎年、達成できそうな目標を定めて活動をしています。

発表会、活動、交流会への参加など飛び込んでくるチャンスは、少しむりをすればできるものは挑戦することにしていきます。

⑤広報・情報共有

マスコミの積極的な活用

多くの人への自己PRも重要です。新聞記者と仲良くなることも忘れずに。知り合いのツテをたどって新聞社を紹介してもらったり、取材してもらうこともあります。マスメディアには積極的に働きかけましょう。

新聞に掲載されると反応が大きいです。とりわけ、イベントの参加者募集は、新聞掲載がもっとも効率的です。

ひとことメッセージ

行政（神戸市北区など）のまちづくり推進課とのおつき合いをお奨めします。ひょうごボランティアプラザを活用しましょう。プラザのメールマガジンにはいろいろな情報が詰まっていますよ。

人とのつながりは大きく広めましょう。前進できる糸口が見つかるかも。

レジ袋削減運動 ～レジ袋減らし隊全国運動～

活動の概要

持続可能な地球環境を子孫に残すために、長年さまざまな環境問題に取り組んできました。特にレジ袋については、マイバック持参運動により削減に取り組んできましたが、一般の関心は低く、運動の広がりには遅々としたものでした。

そこで、'07年4月からの改正「容器包装リサイクル法」の施行を機に、あしたの日本を創る協会が関係諸団体、企業、行政と連携して、身近なレジ袋削減運動を展開することを受け、あすの兵庫を創る生活運動協議会においても、「レジ袋減らし隊全国運動」に取り組むことになりました。

あすの兵庫を創る生活運動協議会、兵庫県消費者団体連絡協議会が主体となり、行政、企業等にも呼びかけ、'07年7月からレジ袋削減運動に取り組んでいます。

'07年度、'08年度の兵庫県の削減枚数は、約2,163,000枚で全国でも上位でした。

成果

「レジ袋減らし隊全国運動」に取り組んだ結果、廃棄物の削減、レジ袋を作る時に使う資源量を減少できました。

一部の地域では、小学校（先生、児童、保護者）の協力も得、「マイバック持参運動推進の取り組みに関する協定」が締結されました。

兵庫県の環境教育副読本（中学校用）に「レジ袋減らし隊全国運動」が紹介されました。



環境教育副読本（中学校用）

課題

「レジ袋減らし隊全国運動」は、県民等に普及してきましたが、引き続き運動に取り組み、持参率を高めていきたい。

夢・抱負・今後の推進方向

当協議会の構成団体は、県内の各地域でそれぞれのテーマで取り組んでいるので、多くの団体と連携をとり、活動の輪を広げたい。

また、保育園、幼稚園、小・中学校、高校、大学等とも連携をとり活動を広げていきたい。



団体名：あすの兵庫を創る生活運動協議会

氏名：会長 幡井政子 事務局：中村千津代

事務所の所在地：〒650-8567 神戸市中央区下山手通5-10-1

電話：078-362-3136 FAX：078-366-0167

ノウハウ・コツ

⑥ネットワークづくり

他団体との積極的な協働

他団体との協働が大切です。そのためには、常日頃から仲良くすることです。

テーマによって協力し合うことができそうな団体に声をかけることで、より多くの方に参加してもらえます。特に、子育て支援活動などは、保育所、若いお母さんたち、高齢者、PTA などに呼びかけると活動が広がります。

また、こちらから声をかけるばかりでなく、他団体の事業にも進んで参加、協力することが重要です。

⑥ネットワークづくり

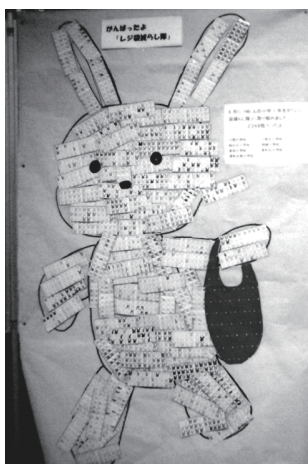
地域住民に働きかける

地域ぐるみの取り組みとするため、学校を通じて子どもたちにも働きかけるよう努めています。

環境問題は、子どもの頃から運動に取り組むことが大切なため、例えば地域の幼稚園・小学校等に取り組みの主旨を説明し、運動の協力を依頼したところ、川西市内7校の小学校が協力、夏休みに小学3年生（190名）の児童が運動に参加し、レジ袋2,348枚を削減しました。

同会メンバーが小学生向けプログラムを作成し、買い物に行きレジ袋を断った日に、カードの「ウサギ」に好きな色をぬって、夏休みが終わったら提出し、集まったカードで大きな「ウサギ」を作って地域の市民広場で展示しました。

子どもたちが、楽しみながら成果を目に見える形にしました。



子どもたちがカードでつくった大きなウサギ



ひとことメッセージ

- 身近なところで課題を見つけ、テーマにすること
- 自分の団体だけでは成功しない
- 地域住民の運動になるように働きかけること
- 地域住民の声とすることが大切である

地域と協働で行う森林保全活動

活動の概要

〈趣旨〉

ビールは水・麦・ホップといった「自然の恵み」からつくられています。その中で私たちアサヒビールは、「水」を大切にしている取り組みを推進しています。

また、地域社会の環境保全活動を積極的に支援し、社員参加による協働による活動を通じて社会に貢献していきたいと考えています。

〈目的・主たる活動〉

平成21年5月、兵庫県丹波県民局、遠阪森づくり協議会、丹波市、アサヒビール西宮工場の4者による「森づくり協定書」を締結しました。

活動地は、丹波市青垣町遠阪地区で、森林保全活動による水源涵養林の保全と協働を通じた地域とのコミュニケーションを図ることを目的としています。

平成21年11月には、第1回の森林ボランティア活動を実施し、地元住民の方30名、アサヒビール側からも30名が参加しました。

今後、年2回を目標に地域の皆さんと活動を展開していきます。

〈連携した団体〉

丹波県民局・・・活動地の選定、地元とのコーディネートを担当。今回の活動の縁結び役です。

丹波市役所・・・行政として地域づくりの一環で支援していただいています。

遠阪森づくり協議会・・・保全計画の作成、道具の準備、作業始動。地元の皆さんで構成されるパートナーです。

成果

平成21年5月に協定を締結し、同年11月に活動を開始しました。枝打ち、間伐、遊歩道整備活動に地元の皆さんのご指導を受け、取り組みました。まだ、活動は始まったばかりですが、「水」を生む森林の保全を地元の皆さんと協働で取り組んでまいります。

課題

双方にとって無理がなく、長続きする活動方法が重要となります。コミュニケーションを欠かさず、お互いにとってメリットのある森林保全活動計画を作成することが課題の一つだと考えています。

また、自社の工場内、グループ内での参加者の拡大を図ること、さらには社内だけではなく、私たちが取り組む活動内容を対外的に報告、広報し、広く社会に認知していただくことも重要な取組だと考えています。

公共交通機関があまり充実していない地区なので、最寄の駅までの送迎方法の確保をどうするかも、課題にあげられるのかもしれない。

夢・抱負、今後の推進方向

間伐作業等を通じ、水源涵養林として健全な森づくりをめざしていきます。

また、工場見学施設を利用し、活動内容の報告と丹波市青垣町のPRを行っていききたいと考えています。

団体名：アサヒビール株式会社西宮工場

氏名：網干 泰民

事務所の所在地：兵庫県西宮市津門大塚町11-52

電話：0798(33)3021 FAX：0798(35)0778

ホームページ：http://www.asahibeer.co.jp

ノウハウ・コツ

コミュニケーション（対話）が重要

行政やNPO、専門家などを巻き込みいろいろな知識や活動方法のアドバイスを得ることが大切です。

このためにも、地域の方々を中心に行政やNPOなどの方々との定期的な話し合いの場を繰り返し設けることにしています。

進むべき方向のベクトル合わせをする。もちろん計画の作成も必要です。関係者や団体が、心を開いて本音で話し合える雰囲気を作ることが何より肝要かと考えています。

こうした対話の中で、義務感が先になると長続きしないので、お互いができる範囲内で活動することを確認しておくこともポイントの一つです。

安全第一

活動の中には危険な場所・作業があるので十二分に安全には配慮することを、心がけています。事故があっては、せっかくの取組が台無しになってしまいます

ヘルメットや軍手などの保護具の準備が必要となります。

しかし、「万が一」「もしも」の時のために、ボランティア保険への加入を勧めます。

楽しみの要素も加える

毎回同じ活動内容ではマンネリ化してしまうので、趣向をこらしていくことが必要です。

例えば、家族で参加できる農作業や植物・昆虫観察などを取り入れたり、バーベキューなどで地元の方々と楽しい時間を過ごすなど、「楽しみ」の要素を加えていくことが重要だと思います。



ひとつとメッセージ

お互いに義務感が先にたつと長続きしないので、双方にメリットのある活動にしていけば最良です。

自然と共生する快適なふれあいの里づくり

活動の概要

西谷地区は、自治会や婦人会、老人会をはじめ、NPO法人等20数団体によって地域推進委員会を構成しています。

当地区の美しい自然を守り、親しみ、活用する運動を地域全体で取り組むことにしています。

地域の豊かな自然を生かし、「みつばち教室」や「ボタン講座」などのほか、湿原や里山の保全など、西谷の自然の中で活動したメンバーが、それぞれの活用や成果の発表と交流を深め、「自然と共生する地域づくり」について考える「西谷環境サミット」を開催しました。



成果

新たな活動が始まるとともに、ボランティアグループの結成や他の公共組織との連携ができるようになりました。

また、講座修了後もグループによる活動が継続しており、活動のリーダーも育ちつつあります。

課題

西谷地区最大の課題は、「自然との共生の中で如何に安全で、快適な生活が送れるか」であり、具体的には、当地区の財産である自然からの災害防止や、「まち」化に伴う人や車の流入による交通事故や犯罪、不法投棄等の防止が挙げられます。

夢・抱負・今後の推進方向

住民が郷土に愛着と誇りを持つことが、地域づくりの第一歩と言われます。西谷の伝統、文化、自然環境などをはぐくみ、いつまでも住み続けたいと思えるだけでなく、訪れる人にとっても、西谷をふるさととする人にとっても、ほっとできる地域でありたいものです。そのために、地域の財産である人材と自然を生かして交流できる広場づくりに努めたいと思います。

そのために、西谷地区まちづくり協議会は、美しい西谷の自然を守り親しみ、活用する運動を進め、自然の保全と環境の美化を地域全体で取り組みます。

団体名：西谷地区まちづくり協議会

氏名：会長 中村 正文

事務所の所在地：宝塚市大原野炭屋1-1

電話：0797-91-1788 FAX：0797-91-1788

E-mail：nishi1234@star.ocn.ne.jp

ホームページ：http://nishitani.web.fc2.com/

ノウハウ・コツ

②活動資金

参加者にも受益者負担を

講座等を開催する場合には、参加者に参加費を納めてもらい、講師謝金、会場費、交通費、資料代、消耗品等に充当しています。

魅力ある内容を考えること、地域の活性化につながっていくこと等を念頭に考えていきたいと思えます。

①人材育成

自ら楽しめる場づくりから人材育成に

企画の段階から参加してもらい、自らの意見や思いを人々に伝え、力を合わせて事に当たっていくことを体験してもらっています。思いが形になっていく過程を楽しんでもらいたいと思えます。

例えば、準備され、お膳立てされたものには集まるのではなく、自らが企画し、活動を展開していくことに面白さを見出せるような雰囲気づくりを考えたり、個人の思いを表現できる場づくり、最初の一步を踏み出すための後押しなどを心掛けたいと考えます。

⑤広報・情報共有

地域の特性を生かした魅力ある情報の発言

地域にある資産（人、自然、文化）を活かせるように考えています。

地域内だけでなく、地域外からも参加してもらえそうなプログラムづくり、情報発信を念頭において活動しています。

ひとことメッセージ

県民交流広場事業に取り組んで今年で5年目になります。ひとつの節目を迎えるにあたって、この5年間の取り組みを地域みんなで振り返り、自立していく次のステップにしたいと考えています。



加古川流域 129 支流の水質浄化作戦

活動の概要

炭には、水をきれいにする効果があると言われています。加古川周辺の水辺環境を美しくするための一環として、加古川上流域で繁茂が進み環境を乱している竹林から竹を切り出すとともに、それを炭にして下流部の河川や水路に竹炭を試験埋設することで、流域全体で環境を維持する活動を続けています。

中学生のトライやるウィーク、小学生の環境学習受け入れなど、まちの寺子屋や県民エコ広場として地域に開かれた活動をしています。



成果

養田川の水質浄化からはじまった取り組みが、徐々に各地に広がり、加古川流域の各地で取り組みが行われるようになりました。

'04年5月には、加西市内の竹藪を利用し、炭づくりのことを学習する拠点（研修所）を整備、'05年9月には愛知万博にも出展するなど、活動の輪もどんどんと広がっています。今では、加古川流域を超えて、猪名川、淡路島、三方五湖との交流も始まっています。

課題

加古川流域でも竹やぶが年々広がり、その処理に困っています。国土交通省、兵庫県などの事業にも協力し、河川敷で伐採された竹材（廃棄物）を引き取り、炭にして水質浄化に取り組む活動も行っていますが、竹やぶが広がるスピードになかなか歯止めがかからないのが現状です。

夢・抱負・今後の推進方向

地道な活動を継続しながら、加古川流域の上流と下流の連携を進めていくとともに、全国各地の人々との交流によって、加古川流域から始まった取り組みを全国のモデルにしたい。

私たち大人が活動できる時間は限られています。地域のなかで、大人も子どもも一緒になって、地域の環境をよくする活動に取り組むことで、世代がかわっても、いつまでもいまの環境が引き継がれるまちづくりをしていきたいと思っています。

団体名： リバークリーン・エコ炭銀行

代表者氏名： 播本 達（はりもとさとる）

事務所の所在地： 〒675-0025 加古川市尾上町養田1245

電話： 0794-23-7600 FAX： 0794-23-7600

ノウハウ・コツ

③活動場所

気軽に参加できるようにする

山奥で炭を焼くのではなく、まちのなかでも作業ができるというのがポイントです。

身近なところで、それぞれの都合に応じて活動ができ、自分で焼くことができない人でも、間伐材や竹を運んでいただければ、その量に応じて炭が還元されます。活動全体に関わらなくても、それぞれにできる関わり方で、河川の水質浄化や、森林・里山の再生に役立つことができる、その気軽さが最大の特徴です。



⑥ネットワークづくり

同じ志を持って動く人たちとの連携

加古川流域で同じ志を持って動く人たちとの連携が進んでいます。

草木染に取り組むKAKOGAWACOLORの皆さんから、草木染の売り上げの一部を加古川流域の環境保全に寄付していただき、それを炭づくりの活動に活用しています。その炭によって、水が浄化され、染色にも効果があるという、いい循環が生まれています。



⑨活動の展開

地域を自慢できるような活動に

炭をつくる活動からどんどんと活動の輪や仲間づくりが広がり、加古川中洲の柳の木でヒラタケづくり、国宝鶴林寺の竹林整備などにも取り組んでいます。

活動を通じて、加古川のいいところをどんどんとアピールして、誰にでも自慢できるようなまちにしたいと思います。



ひとことメッセージ

○環境大臣会合のNPOイベントに参加し、そのことが縁になって東京の団体とも交流が生まれ、「エコジャパンカップ市民が創る環境のまち元気大賞」特別賞を受賞させていただきました。その後、日本テレビの朝の人気番組ズームインスーパーで取り上げられたり、小学生の学習参考書に取り上げられるなど、たくさんのいい経験をすることができました。

○いろんな賞をいただきましたが、そのことが仲間の励みにもなっています。いろいろな応募を見つけるたびに積極的に応募してみてください。

絶滅危惧種水生植物「オニバス」が生育するため池の保護活動

活動の概要

土地区画整理事業により改修工事が行われていた末々池で‘05年に絶滅危惧種に指れ、生育確認箇所（池等）が減少している巨大水草「オニバス」が60年ぶりに発生し、群落をみせました。地域の貴重な財産として後世に残したい思いからオニバスの保護活動を始めました。オニバスが生育するための環境整備と周辺の清掃活動をしています。

末々池は農業用水供給池の役目を終えたため池です。この池で、水の確保、雑草の整理、オニバスの天敵であるアメリカザリガニなど外来生物の駆除が主な活動であり、毎月1回の作業に明け暮れる日々が約4年続いています。

夏期には、他のグループのオニバス観察会等に参加して交流を図っています。



オニバスが群生



除草作業

成果

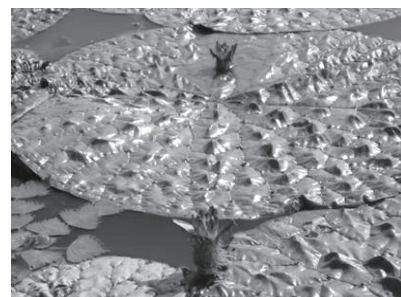
4年間の活動でオニバスの存在が地域住民に徐々に知られてきました。毎月1度、池中の除草作業を4年間欠かさず続けてきました。2007年以降オニバスの発芽は見られませんが、清掃作業を続けている結果、池周辺の環境は整備・保持されています。

課題

池の管理者である水利組合の積極的な協力を得ること。
会員（特に若い会員）を増やしていくこと。活動資金の確保。

夢・抱負・今後の推進方向

オニバスの咲く美しい水辺空間をつくりたい



オニバスの花

団体名：西二見末々池オニバス観察研究会

氏名：松尾好政

事務所の所在地：明石市二見町西二見2153-1

電話：078-941-5797

FAX：078-941-5797

E-mail：upkn21069@gaia.eonet.ne.jp

ノウハウ・コツ

⑤広報・情報共有

オニ研通信をポスティング

メンバーや住民にオニバスとは何か、絶滅危惧種水生植物の保護の必要性、オニバスが生育する『ため池』の環境保全と水辺空間の大切さを伝えていくために毎月1回「オニ研通信」を作成し、ポストに入れるなどして配布しています。

⑥ネットワークづくり

専門家に積極的にアプローチ

オニバスなど水性植物の研究者（大学の教授や水族館の研究員など）に相談しています。オニバスの生育のためにはアメリカザリガニなど外来生物の駆除が大きな課題になっていますが、その対策などのアドバイスをもらっています。インターネットで問い合わせをしています。

滋賀県であった「彦根城オニバスプロジェクト」の関係者からオニバスの保護などの活動をしている団体を紹介してほしいと、いつも相談に乗ってもらっている教授に問い合わせがあった時に、教授が当会を推薦され、パネリストに招かれました。以降、プロジェクトの関係団体と交流が続いています。大学教授とのつながりは、このようにネットワークの広がりにもつながります。



ひとことメッセージ

アメリカザリガニを退治するために、思い切って活動を2～3年中止するのも方法かもしれません。活動を続けるばかりでなく、根本解決のために一時退去も今後の展開のためには有効かもしれないと思っています。

アメリカザリガニなど外来生物の駆除が最大の問題ですが、対応策が見つかりません。情報をお持ちの方はご一報ください。

活動の概要

かけがえのない大切な資源である水を使用する企業として、兵庫県、小野市、兵庫県緑化推進協会及びコカ・コーラウエスト株式会社との間で、2008年12月に共同管理契約を締結しました。

小野市黍田町高山の「白雲谷温泉施設」に隣接する森林を明石工場の水源涵養林とし「ひょうごさわやか自然の森」と名づけ、植樹・枝打ち・間伐・下刈りなどの森林保全活動・自然体験学習を実施しています。今後10年間、約10haの森林をお借りして、兵庫県、小野市の里山計画に沿った内容で、年1～2回の活動を行っていく予定です。

(連携した団体)

社団法人兵庫県緑化推進協会は、活動前に「森と水」に関する講習会を開催、また、兵庫県森林組合連合会は、のこぎり・ハサミの使い方、残す木と切っても良い木の見分け方、切った木の始末、樹種の説明等の保全活動の指導をしていただくなどの連携を図っています。

成果

地元小野市や三木市、明石工場近隣会社からもご参加いただき、多くの人たちのご協力のもとに保全活動を実施しています。

活動前には講習会を開催し、森や水の役割等について理解し、森林での実体験時には、指導員のアドバイスを受けながら汗をながします。

活動後、地元との交流会があったり、県からは活動事例発表の場をいただいたり、機関誌に掲載していただいたりと多くの方に活動を知っていただく機会が増えています。

課題

現在、社員及びその家族をメインの参加者として順調に事業は進んでいますが、この活動への共感者（参加者）を増やしていくことが課題であると考えています。

夢・抱負・今後の推進方向

参加者募集は社員及びその家族をメインにしつつ、今後は、地元の住民、取引先等にも声掛けをさせていただき、多くの方とともに山のあるべき姿（県、市の構想）に沿った保全活動を実施して行く予定です。

団体名：コカ・コーラウエスト株式会社

氏名：環境推進部 玉置 洋司

事務所の所在地：大阪府摂津市千里丘七丁目9番31号（千里丘オフィス）

電話：06-6330-2191

FAX：06-6368-2704

E-mail：hiroshi-tamaki@ccwest.co.jp

ホームページ：http://www.ccwest.co.jp/

ノウハウ・コツ

行政との連携

コカ・コーラウエストプロダクツ株式会社 明石工場の水源涵養林を兵庫県下で探している時、先に契約した京都府（農林水産部、京都モデルフォレスト協会）より、2008年2月「企業の森林づくりフェア」で各府県よりブースが出るのご案内を頂き、兵庫県の窓口をお訪ねしたことからこの取組が始まりました。

兵庫県緑化推進協会や兵庫県緑化推進協会、兵庫県森林組合連合会など、活動を実施するに当たって連携先が広がったのも、行政との連携によるものと考えています。



保全活動完了！



ひとつとメッセージ

環境問題に関心はあるものの、実際には行動を移すことができなかった社員が、改めて地球環境のことを考える良い機会となりました。

資源の地産地消—なたね油を利用してイベント列車を走らせたい

活動の概要

平成17年に公募された「龍野市まちづくり塾」に3人で応募し、市職員が加わってグループで「菜の花プロジェクト」について調査し、市長に事業化に向けた提言をしました。これがきっかけとなって、まちづくり塾に参加したメンバーを中心に、農家やNPO関係者を加えた10人で①JR姫新線沿線の遊休農地に菜の花を栽培して自然環境の保全と景観の向上を図ること ②西播磨地域の家庭から排出される使用済みの天ぷら油を回収し、BDF*に再生すること をめざし、「姫新線ふれあい菜の花プロジェクト」を立ち上げました。

野菜直売所、大規模農家、テクノ水星(株)、NPO法人えびす、みのり会などと連携して、菜の花の栽培活動と廃食用油の回収活動を実施しています。

*BDF：バイオディーゼル燃料のこと。化石燃料(軽油)の代替燃料として、植物性の油を原料にしたディーゼルエンジン用燃料。CO₂削減の手段として注目されている。

成果

当初、大規模農家1人にパートナーとして菜の花の栽培をお願いしていましたが、現在、自治会や野菜直売所など4グループになり、栽培面積も約8畝に広がりました。

廃食用油は、初年度(H19):1,214ℓ、昨年1,766ℓを回収し、これによりCO₂4,655kgが削減、市のゴミ焼却費用77,861円が節約できました。

農家の人にトラクターの燃料にBDFを試験的に使用してもらっています。平成21年の「たつの市市民祭り」ではBDFを利用したトラクター3台がパレードをしました。



課題

再生した燃料の利用が進んでいません。そのため、地域内の各種イベントや活動展示会への出品を重ね、また、燃料化作業の見学会も開催してPRしています。

夢・抱負・今後の推進方向

菜の花プロジェクトの完結が目標です。(①野菜としてサラダや天ぷらに活用→②景観作物として楽しむ→③一部は刈り込んで緑肥に、一部は菜種から搾油し、天ぷら油にして給食などに活用→④廃油はBDFに再生し、トラクターやコミュニティバスの燃料として活用)

当初より姫新線の利用促進を視野に入れて活動してきました。このBDFで姫新線のイベント列車を走らせたいと考えます。



団体名：姫新線ふれあい菜の花プロジェクト

氏名：(代表者) 橋本 福文

事務所の所在地：たつの市龍野町日山1-19

電話：0791-63-3240

FAX：06-6498-1288

E-mail：kishin_7_87@nike.eonet.ne.jp

ホームページ：http://www.hyogo-vplaza.jp/event/group_detail.php?ID=4173

ノウハウ・コツ

⑥ネットワークづくり

日用品の買い物先からでもネットワークが広がる

何げないところからネットワークは広がるものです。いろいろなイベントをやっているのを見て人から、買い物先でメンバーが声をかけられ、天ぷら油の提供の申し出を受けました。できるだけ日用品は地元で買い、会話する中で活動のPRに努めています。また、環境フェスタ等に積極的に参加し、名刺交換して絶えずネットワークの拡大に努めています。

行政から当会の事業に興味のある人材(農家や野菜直売所の経営者等)を紹介してもらい、その延長でNPO法人と出会い、新たな活動が始まりました。



①人材養成

専門家に任せにしない

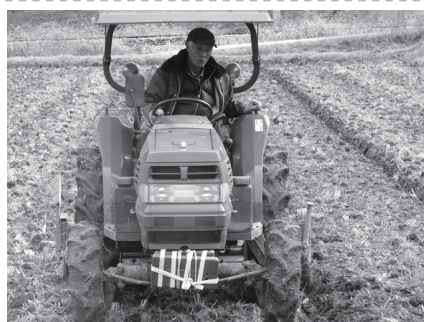
全体の事業の中で、農業のことなど知識のない部分については、専門家に任せてきましたが、それが間違いのもと。メンバーや市に報告するにも説明ができず、何よりも新しい展開が見えません。苦手なことにも臆せず、自ら理解し、自分で確認することの必要性を認識しました。専門家にならなくても薄く浅くでいいので、一応の知識を吸収すれば活動は広がります。

②活動資金

申請書を書く力を磨く

いつも運営資金の確保に苦心しております。何度も何度も挑戦するうちに申請書を書く力がついてきたように思います。

申請書や報告書の書き方は、NPO中間支援の無料相談会をいつも利用して、アドバイスをもらっています。短時間で理解してもらえるように要点を簡潔にまとめること、インパクトがあることなどがポイントです。



ひとつことメッセージ

ひょうごボランティア基金と環境創造協会の情報は、特に注意して見えています。助成金情報、同趣旨の活動をする団体の情報、各種セミナーの開催情報が充実しています。

NPO法人コムサロン21の会員として10年、相談会を頻繁に利用させていただきました。助成金をゲットするノウハウを伝授していただき、お陰で何とか活動を継続させることができました。

平成21年度から廃食用油のリサイクル事業の中で障害者の就労支援を始めました。障がいのある人に廃食用油の回収作業をしてもらっています。

なたね油を使用してJR姫新線のはばタン列車をイベントで走らせ、歌声列車にしてナツメロを歌いたいとは思いませんか、興味のある方は連絡ください。

環境保全

新田環境宣言の郷



活動の概要

新田地区は、平成 16 年の台風 23 号の大災害に対して多くの方々のご支援をいただき、復興することができました、その翌年に「新田感謝祭」を開催して、自然と人とのつながりを考えるようになり、新田小学校の児童と卒業生が、環境について自分たちのできることを考え、行動するグループ「新田プロジェクトE」を立ち上げました。

平成 18 年にコウノトリの自然放鳥があり、19 年にはコウノトリの自然界でのヒナ誕生から巣立ちがあり、自然と人に優しい無農薬栽培として、農事組合法人が中心となり「コウノトリ育む農法」に取り組み普及に努めておられます。児童もコメ作り体験学習を通して地域の方々にこの農法での指導をしていただくことにより、自然の大切さを学びとっています。世代を超えた環境保全の取り組みを広めてゆくために、また、コウノトリをシンボルに共生することを目標に

「環境会議」を開催していく中で、地域の環境を知り、環境が及ぼす「食」への影響を学び、地域住民の共通意識のきっかけとして『新田環境宣言』「次世代に引き継ぐ新田の自然、文化、共生社会」を宣言しました。また、各地区内に『新田環境宣言の郷』と題した環境啓発看板の設置を行い P R 発信しています。



成果

「環境会議」を進めていくにあたり、新しい農法への取り組み、農地・山・川の保全等、地域一体での取り組みが不可欠という一致した認識から、児童・学校中心から公民館を中心とした地域主体へ組織構成の変革ができました。それにより活動の範囲を拡げることができました。(現在、組織の再構築により環境会議構成団体に 14 団体のネットワーク)

公民館、学校が活動の中心となって呼びかけることで加入団体が大幅に増えました。

課題

地域全体で継続して取り組んでいくために、世代間を超えた連携の必要性和継続性を地域住民全体にアピールし、共通認識を持ち、継続していくこと。

新田環境会議
での発表



夢・抱負・今後の推進方向

小学生から高齢者まで異世代間の交流を益々深め、自然に恵まれた新田の環境を守り伝えていくために「新田環境宣言の郷」を地域住民の統一したテーマとして認識し、環境保全と各家庭でもできるエコ活動に地域住民全体で取り組んでいきたい。

団体名：新田環境会議実行委員会

代表者氏名：(会長) 永川 進 (問い合わせ) 新田地区公民館

事務所の所在地：兵庫県豊岡市河谷 5 9 6 新田地区公民館

電話： 0 7 9 6 - 2 4 - 3 1 6 0

FAX： 0 7 9 6 - 2 4 - 3 1 6 0

E-mail： nittachiku-cc@city.toyooka.lg.jp

ノウハウ・コツ

③活動場所

恵まれた地域の自然を活用

広大に広がる田園の中に、新田地区の中心に位置する新田小学校と新田地区公民館があります。小学校の北側から見える位置にコウノトリの人工巣等が立てられ、ここからヒナが巣立ち大空を舞っています。

台風による自然の脅威、コウノトリによる自然の大切さ、米作りによる自然のありがたさ、これらを体感できるように、子どもたちの活動場所は、大抵、田んぼや川です。ここで農家の人から、冬でも田に水をはること、魚道をつくること、農薬を使わないことなど日常的な作業を学んでいます。

小学校と地域と行政が連携し、学び・育て・創る環境保全活動を展開しています。



冬期たん水田

⑤広報・情報共有

見て、読んで、感じ取れる広報冊子

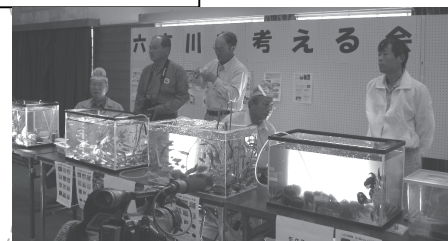
地域の中に活動を周知し広めていく中で、広報は重要な役割を担っています。活動を進めていくと大人から子どもたちが学び、また逆に、子どもたちから大人が学びとることもあります。その情報の共有をつなぐパイプラインとして「環境会議」の内容を冊子として発行しています。なるべく写真を多く取り入れ、見て、読んで、感じ取れる内容とし、小学校全校生徒と地域に配布することで地域全体での取り組みへと広がっています。

また、環境会議のホームページは、小学校で管理・更新し、発信しています。

⑥ネットワークづくり

専門の異なる多様な団体による組織編成

小学校の児童が中心となって取り組み始めた環境と防災問題をPTAがサポートする形で始まった「環境会議」ですが、地域内で環境にやさしい米作りを実践する「農事組合法人」や、自然再生に取り組む「六方川を考える会」等と連携しあうことにより、活動が飛躍的に向上しました。



ひとことメッセージ

団体のホームページを一部ご紹介します。

新田小学校 <http://www2.city.toyooka.hyogo.jp/edu/school/nitta-es/index.html>

河谷営農組合 <http://www15.plala.or.jp/koudani/index.html>

六方たんぼのコウノトリ便り <http://pub.ne.jp/kounotori>

自然と共生 花と緑のまちづくり

活動の概要

自宅の裏が里山、そのような中で暮らしているにもかかわらず、そこが楽しい遊び場であることを知らない子どもたちが多いのが現状です。そこで、景観園芸学校の卒業生が中心メンバーとなって、子どもたちへの遊び場の提供と里山保全のため、個人所有する山林、竹やぶ、休耕田を活用して手づくりの里山基地をつくりました。

里山基地には、竹を伐採活用した天空ツリーハウス、桜の木づたいに空中に竹を組んで渡した天空回廊、自分たちで作った紙芝居の披露、竹藪茶会、天空ライブ等を行うステージ、筏を浮かべ、メダカを近くで見られるため池があります。ここで月1回（第2日曜日）、家族参加を原則に定例の基地遊びを開催し、昼食に野外クッキングをします。メンバーは常にツリーハウスづくりや水洗トイレの整備など基地の整備に取り組んでいます。

成果

口コミで参加者が増え、今では毎月60名、多い時は80名余りの参加者があります。島外からの参加者も増加しています。

ツリーハウスづくりに大量の竹を使用した結果、竹やぶの保全につながり、タケノコがたくさん出るようになり、タケノコ掘りを楽しむことができるようになりました。

また、地域の幼稚園や小学校、都市部の子ども会等から自然体験活動の場所として貸してほしいとの依頼があり、年3～4回提供しています。

課題

県道から里山基地に入る道が鋭角で細い下り道なので、車で来る参加者が多いなか危険だったのですが、多くの人に来ていたので事故があってはいけないと市が道を広げてくれることになりました。地道な活動に賛同いただけたのだと感謝でいっぱいです。

夢・抱負・今後の推進

地域の子どもたちが里山基地を管理する私たちメンバーを「・・・ちゃん」と愛称で呼び、冒険家でこの里山基地づくりを指導して下さった二名良日氏を「私の先生」といって自慢していると聞きます。心の故郷として、地域の子どもたちも大人も自然に集まり、交流できる場所となりつつあります。

何年か前に植えたブルーベリーやリンゴなど実のなる木が収穫できるようになってきました。いろいろな面でたくさんの実をつけ、夢のある楽しい場所になってほしいと願っています。現在の自然体験活動や里山保全を肩を張らずに継続していきたいと思えます。

団体名：アルファグリーンネット（AGN）西淡支部

代表者氏名：武田 里美

事務所の所在地：南あわじ市伊加利1619

電話：090-7553-9492

FAX：0799-39-1032

E-mail：t0576@blue.sansan-net.jp



ツリーハウス 地上33メートル展望台



竹細工

ノウハウ・コツ

⑥ネットワークづくり

その日の活動内容に合わせて、いろいろな団体と協力

この地域には花と緑のまちづくりをめざす活動グループがたくさんあり、何か活動する時には協力しあっています。西淡花づくりグループ(約30団体)の代表で構成する「花づくりネットワーク西淡」には、毎月の活動日に野外クッキング等を担当していただき、「あわじオープンガーデン実行委員会」には山小屋づくりや流しそめんを実施してもらっています。

また、活動を続ける中で年1回程度、地域のいずみ会が郷土料理である「ちょぼ汁」をふるまいますか、と声をかけてくれるのでお願いしています。

①人材養成

地域の年配者をスタッフに

毎月の活動日にはメンバーのほかに地域の年長者ら賛同者が、自分の得意分野なら、「次回はこういうことをすると聞いたが、手伝いに行ってもやろうか」と声をかけてくれ、伝統技を教えたり、野外クッキングを手伝ってくれます。メンバーにこだわらず、年配者に専門・得意分野、技術、知恵を生かす形で広くスタッフとして関わっていただいています。

⑨活動の展開

活動メニューは変化をもたせながら柔軟に

毎月1回の活動日に実施するメニューは年度当初に作成しておき、参加者には、次回は何をするかを毎回伝えることにしています。活動メニューは、この里山でとれるものを生かしながら毎回異なるものとしています(山菜をとってきて天ぷらにする(3月)、里山に生えたタケノコでチラン寿司をつくる(4月)、イモの苗を植える(5月)、収穫祭(10月)、リースづくり(12月)、もちつき(1月)など)。

また、クリスマスリースは長く飾りたいので早目に作りたいといった参加者から要望があると、柔軟に対応しています。



流しそめん樋づくり



葉もちづくり



めだかとり

ひとことメッセージ

里山基地へ一度訪れて頂きたいと思います。心の洗たくができますよ。

花で仲間と幸せを「花の輪、人の輪（和）、幸せの輪」

活動の概要

震災後に現会長が訪れたニュージーランドのクライストチャーチの花と緑の美しい街並みと旅行者への住民の温かいもてなしの心に感動して、淡路島を「震災の島から花の島」への思いで旧友に呼びかけ、平成 10 年「バーベナあわじ」を設立しました。現在、会員は淡路全域に約 100 名います。

沿道緑花活動、講演会や寄せ植えの講習会・作品展の開催など緑花啓発活動、生ゴミから肥料をつくる講習会の開催など環境保全活動、老人ホームへの慰問や作業所でのフラワーアレンジメントを作りながらの交流など人づくりふれあい福祉活動等、幅広い活動を通じて人の輪を広げています。

また、幼・保育園、小学校、景観園芸学校、花グループやライオンズクラブなど他団体と協働して花壇植栽や啓発活動を実施している。

地域のイベント、島まつり等で「花と緑のまちづくり」「CO2 を減らそう」のアピール啓発活動にも力を入れています。

成果

平成 10 年に生穂小学校前の花壇の再整備を始め、花博開催までに国道沿いの空き地に 2 カ所の花壇を修景しました。以降、県・市道沿い等の空き地を修景し、現在 8 カ所の花壇と子どもたちと野外授業で整備した 18 カ所のなかよし花壇の維持管理をしています。



植栽

課題

会員の高齢化に伴い、作業の負担感が増しています。花壇の植栽については、一年草は少なくして花木・常緑低木・多年草・球根に切り替えるなど、作業の軽減を図る工夫をしながら活動を続けています。

夢・抱負・今後の推進方向

人と自然の共生を次世代に伝えるため、子どもたちと協働の機会を増やし、花や緑を通して情操教育の一役を担い、花づくりから人づくりへとその輪を広げ、“こころ豊かな地域づくり”を進めたい。

団体名：バーベナあわじ

代表者氏名：上田 治子

事務所の所在地：淡路市生穂 1 5 3 8 - 1

電話：0 7 9 9 - 6 4 - 0 0 2 5

FAX：0 7 9 9 - 6 2 - 5 5 9 3

ノウハウ・コツ

①人材養成

一人ひとりが能力を発揮できる場の確保

メンバー一人ひとりが幅広い活動のどこかでその人の能力を発揮できる場をつくり、自信をもってもらうようにしています。それは、寄せ植えの講習会での講師、花壇の植栽、舞台に飾る生け花、祭りなどイベントの責任者など、得意なことでリーダーとなり、輝くことができる場を設けます。このことが各メンバーの活動の原動力となり、会全体の活力アップにつながっています。

②活動資金

バザーを活用

年会費は、当初から1年5千円とし、花の苗など不足する分は追加の持ち出しもしています。また、年3～4回、図書館祭り、精神福祉大会、イベント会場でメンバーが物品を提供したり、売り上げの数%を渡して切り花やフラワーアレンジメントを提供してもらってバザーをし、活動資金にあてています。講演会をする前には、会員内でのバザーをし、会の運営費にあてています。

また、賛助会員の企業には、年1度、賛助会費を郵送で募っています。企業に総会の案内をし、欠席された企業には、花を持って結果の報告に行き、つながりは大事にしています。

⑨活動の展開

活動を楽しむ

あまりがんばり過ぎず楽しい事が一番です。活動に集うことが楽しみであり、楽しい仲間づくりが継続の秘けつでしょうか。バザーや寄せ植えなどは、井戸端会議のおしゃべりをするような雰囲気です。

活動を見たり聞いたりして楽しそうだからとメンバーが加わり、メンバーの新陳代謝は激しいのですが、常に約100人はいます。連絡網を作り、①全体活動 ②支部ごとの花壇管理 ③関係機関からのイベントへの参加のよびかけと活動に応じて、メンバーに系統的に連絡を行います。参加しなくても「来なかったね」とは決して言わない緩やかな運営を心がけています。メンバー間での笑顔と思いやりが活動を楽しくし、それが活動の継続を支えます。



花壇管理



図書館まつり：寄せ植え展

ひとつことメッセージ

地域の人や通行者から感謝の言葉や励ましをいただきます。ワイワイみんなで楽しみながら、公共の場所を花壇にして管理することでたくさんの人に喜んでもらうことがメンバーの誇りになっています。「人の喜びを自分の喜びとする生き方をする」それが活動の継続にもつながると思っています。